

瑞泉寺ずゐせんじは三条小橋こばしの南にあり、浄土宗にして、本尊阿弥陀あみだ仏は聖徳太子しやうとくの作なり、開基は三空桂叔和尚さんくうけいしゆくおしやう、本願は関白くわんぱく秀次公ひでつぐの母堂瑞龍院ほだうずゐりやうゐんなり。秀次公追悼ひでつぐの為に建立し給ふ。「則秀次公ひでつぐを瑞泉院殿ずゐせんゐんでんと号す」文禄年中に秀次公、太閤秀吉たいかひでよし公に対して逆心の企あるよし、故に紀州高野山きしうかうやに入つて自殺す、首を取つて三条河原がはらに梟、又三十余人の妾婦并に稚子共、此所において斬罪して同穴に埋む。其後塚を築て上に截石あり、銘に曰、秀次悪逆塚ひでつぐ文禄四年七月十五日と書す。〔傍に石塔婆あり、妾婦三十余人の墳なり、悉く法名をきざむ、世に畜生塚といふは非なり〕